令和６年度第４回人間文化研究機構教育研究評議会　議事概要

○ 日　時：　令和６年１１月１３日（水）　14：00～16：10
○ 場　所：　国立民族学博物館　第４セミナー室
○ 出席者：　宇田川、内田、神作、木部、栗本、クレインス、佐藤、高野、田中、陀安、西谷、野家、速水、堀、前川、松本、宮崎、山極、吉田（和）、吉田（憲）、渡部の各評議員
陪席者：　若尾理事、井野瀬監事、井上監事、井上事務局長
事務局：　監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、研究企画課長、財務課長、施設課長、その他関係職員

○ 概　要：

議事に先立ち、機構長から、新たに就任した監事の紹介があった。また、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。

議　題：

(議事概要)

（１）令和６年度第２回議事概要について（資料１－１）

機構長から、令和６年度第２回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

（２）令和６年度第３回（書面審議）審議結果について（資料１－２）

機構長から、令和６年度第３回教育研究評議会の書面審議の審議結果について報告があった。

(審議事項)

（１）国文学研究資料館次期館長の選考について（資料２）

機構長から、資料２に基づき、国文学研究資料館現館長が令和７年３月限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった。

続いて、宮崎理事から、回収資料に基づき当該機関の運営会議における次期館長候補者の選考の概要及び候補者として推薦された者等について説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

（２）国立民族学博物館次期館長の選考について（資料２）

機構長から、資料２に基づき、国立民族学博物館現館長が令和７年３月限りで任期が満了することに伴い、教育研究評議会の意見聴取を行う旨の説明があった。

続いて、宮崎理事から、回収資料に基づき当該機関の運営会議における次期館長候補者の選考の概要及び候補者として推薦された者等について説明があった後、意見聴取が行われた。

意見聴取の結果、特段の意見が無かったことを受け、機構長から選考手続きを進めていく旨の発言があった。

(報告事項)

（１）　令和７年度概算要求の状況について（資料３）

宮崎理事、山極地球研所長及び堀理事から、資料３に基づき、令和７年度概算要求の状況について報告があった。

（２）　第４期中期計画に係る自己点検・評価結果（令和５年度）について（資料４）

栗本理事から、資料４に基づき、第４期中期計画に係る自己点検・評価結果（令和５年度）について報告があった。

（３）　人間文化研究創発センターの活動状況について（資料５）

栗本理事、堀理事から、資料５に基づき、人間文化研究創発センターの活動状況について報告があった。

（４）　第５期中期目標・計画の策定に向けて（資料６）

機構長から、資料６に基づき、第５期中期目標・計画の策定に向けて報告があった。

（５）　教育研究評議会における外部委員からの意見の対応について（資料無し）

機構長から、教育研究評議会における外部委員からの意見の対応について報告があった。

（意見交換）

「人文機構に求める共同研究について」をテーマに意見交換を行った。

主な意見は以下のとおり。

・　ＤＨにより人文学が深くて遠いものから身近なものになってきているため、今までのように深掘りしていくだけでなく、社会との接点をどう作っていくかに焦点を当てていく必要がある。今まではターゲットではなかった層がターゲットになっていくことが次の展開で重要な点になっていくのではないか。

⇒　社会とのつながりについて、さらに深め、広めていく活動をぜひやっていくべきだと思う。

・　都立高校でＤＨに関する講座を行ったとのことだが、ここはどうやって見つけたのか。

⇒　恐らく、各地の高校で生徒が探求する推奨されている中、そういった探究学習の授業を担当する先生方の間で、人文機構のＤＨ担当教員が有名なため、ぜひ来てほしいと要望が来ている状況かと思われる。

・　共同研究でブレイクスルーを起こすには、今までの研究の延長ではなく、ＤＨによって研究のスタイルも変わると思うので、何か斬新な視点から考えることが必要になると思う。

⇒　共同研究でブレイクスルーがうまれるようなシステムが必要になる。

⇒　ＤＨでブレイクスルーを起こすには、量の蓄積が必要だ。研究者がそれぞれ個別にいろいろな試みを行うのではなかなか大きな動きにつながらないため、研究者同士がもっと共同で研究を行い、量を拡大していけば、新しい世界が生まれるのではないか。

・　人工知能やＡＩ、バーチャルリアリティーがこれから人文学の研究ツールに入ってくる。もう始まっていると思うが、こうなると研究倫理や、様々な法的問題も同時に考えていかないといけないだろう。

・　ＤＨの展開で、海外の若手の関心が強まるのではないか。現在アジアを中心に観光客が増えており、日本への関心が高まっていると思われる。ＤＨの研究資源を海外に展開し、グローバルな研究ができたらよいのではないか。

⇒　海外展開も重要で、ＤＨでも少しずつ進めている。特にグローバル地域研究はまさに国際展開が必要だと感じている。

その他、機関視察に対し、次のような意見があった。

・　以前、民博の施設見学をした際に、ある展示について、説明が足りないのでは、と指摘したが、今回、非常に的を射た解説がされており、また、英語の併記もあり大変感銘を受けた。

以上